

# 日々 往来



田口 哲也

鳥取中部地震からまもなく1年。被災地では、今なお壊れた屋根や壁も目につくが、震災を耐え抜いた歴史的建造物や海外からもファンを集めるアニメなど、地元の強みを生かしたまちづくりが着実に前進していることは、復興への希望を感じさせる。

災害や事件・事故に至らずとも、私たちの日常生活の中で、思いもよらぬ事態に困惑させられる場面は少なくない。往々

## リスクと不確実性

にして物入りも伴つかの真価のひとつは、十分に、余計に厄介だ。近年は、老後の生活や子供の教育費など長い目で見たライフイベントの出費に不安を感じる人が増える傾向にある。

昨年、金融広報中央委員会が18歳以上の個人を対象に行ったアンケートによれば、鳥取県では「お金について長期計画を立て、達成するよう努力している」と自己評価している人は半数弱(48%)にとどまり、実際に「老後の生活費について資金計画をたてている人」の割合は3人に1人(36%)となっている。

最近の日銀の調査では、どの年齢層においても、将来を見通した生活設計を立てている世帯では、安全性と収益性の双方により幅広く目配りができている可能性があるといわかってきた。

鳥取県金融広報委員会では、県民の皆さんから

の希望に応じて、随時、生活設計などに関する金融広報アドバイザーの派遣を行っている。多くの

人に利用して頂くことで、より安心で豊かな生活を実現するお手伝いが

できることを願っている。

経済学の古くからの知見を借りれば、人の営み

(日本銀行鳥取事務所長)